

研究主題

「書くこと」による表現力の育成を図る英語科学習指導の在り方

～ 語の定着を図る指導と場面に応じた適切な英文を書く指導の工夫を通して～

主題設定の理由

新学習指導要領が実施され、3年目を迎えた。中学校外国語では、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」ことが目標とされている。英語の目標は、今回3学年まとめて示されるようになり、書くことに関しては、「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。」ことが3学年を通しての目標とされている。

県教育研修センターが平成14年度に第2学年を対象に実施した、中学校基礎学力調査（実施校：県内全公立中学校148校、受検者数：12829名）の結果から、次のことが明らかになった。「聞くこと」、「話すこと」に関する問題に比べ、「書くこと」、「読むこと」に関する問題の正答率が低い。また、語彙をはじめ、言語に関する知識・理解を問う問題の正答率が低い。中でも、基本的な語を書く問題では、つづりを間違ふ誤答がみられるとともに、無解答も目立った。さらに、自然な対話となるように適切な英文を書く問題では、語順が正しく理解されていない誤答が多くみられた。

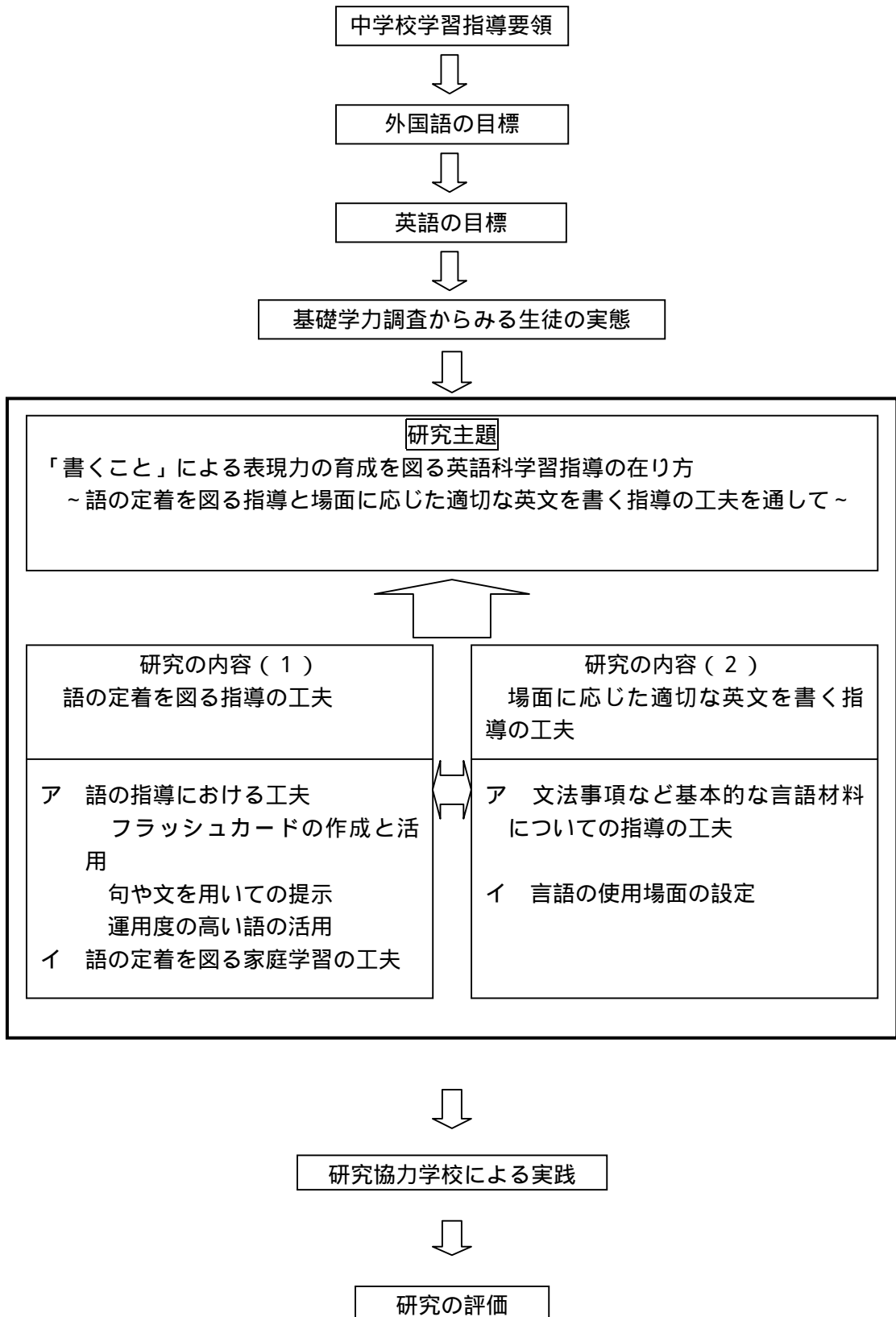
これらのことは、新学習指導要領の趣旨を生かす観点から、各学校において、以前よりも音声による指導が重視される中で、語を正確に書いたり、場面に応じた表現を英語で書いたりする指導や活動がおろそかになっているからではないかと考えられる。したがって、「聞くこと」、「話すこと」に関する音声面の指導を大切に行う一方、語を正確に書くことができ、それを基に、場面に応じた適切な表現を英語で行うことができる力がおろそかにならないように指導することは大切なことである。それによって、実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことにつながるものである。語の指導に関しては、運用度の高い語を厳選し、習熟を図るようにすることを基本的な指導の方向とし、フラッシュ・カードの活用法や語の定着を図る家庭学習の工夫など、語の定着を図る指導を工夫することで、語を正確に書く力を育成することができるのではないかと考えた。また、文法事項など基本的な言語材料についての指導の工夫や、言語の使用場面の設定など、場面に応じた適切な英文を書く指導を工夫することで、場面に応じた適切な表現を英語で行うことができるのではないかと考えた。

そこで、語の定着を図る指導について工夫するとともに、場面に応じた適切な英文を書く指導の工夫を行えば、語を正確に書いたり、場面に応じた表現を英語で表したりすることができ、「書くこと」による表現力の育成を図ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

研究の仮説

語の定着を図る指導について工夫するとともに、場面に応じた適切な英文を書く指導の工夫を行えば、語を正確に書いたり、場面に応じた表現を英語で表したりすることができ、「書くこと」による表現力の育成を図ることができるであろう。

研究の全体構想図



研究の実際

1 研究の内容

(1) 学習実態調査の分析

研究協力学校に依頼し、学習実態調査を行った。

ア 実施時期

平成16年7月

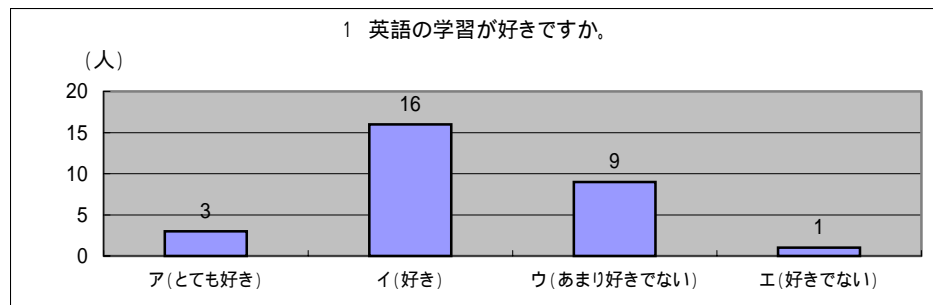
イ 対象生徒

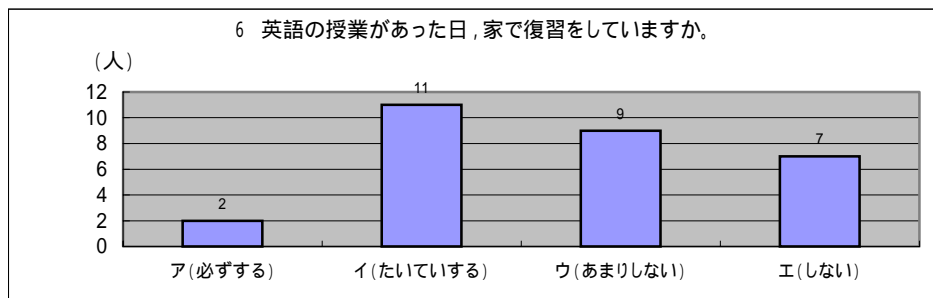
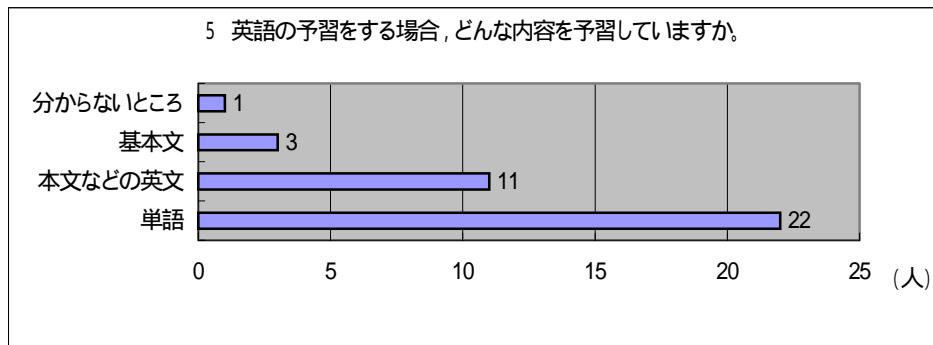
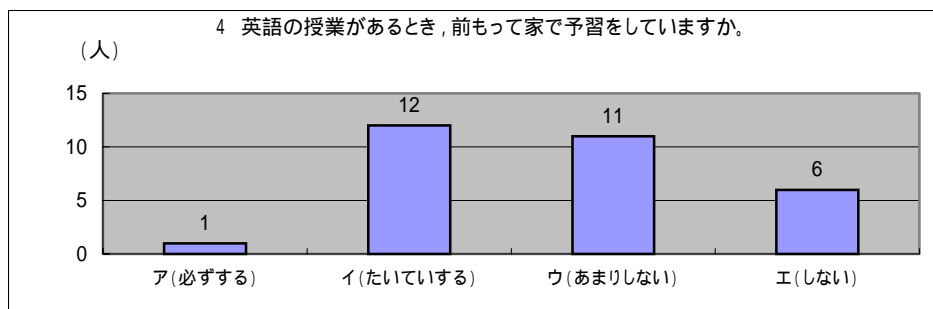
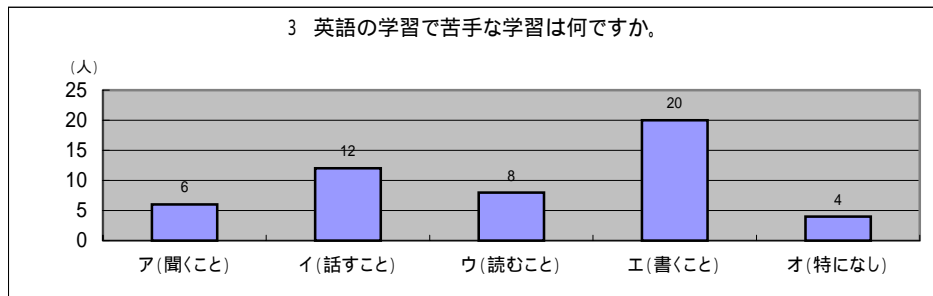
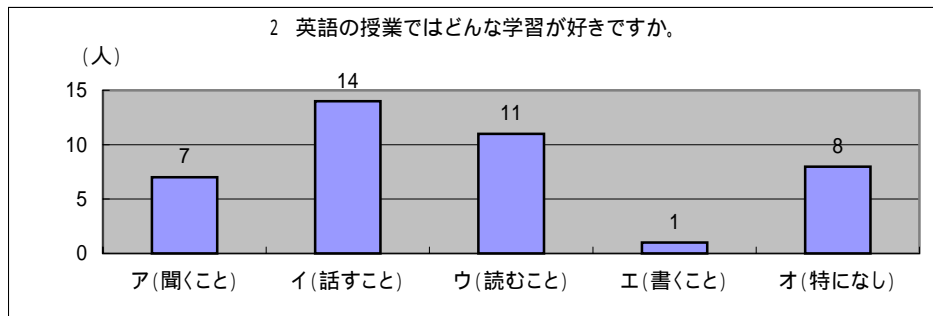
第2学年(30名)

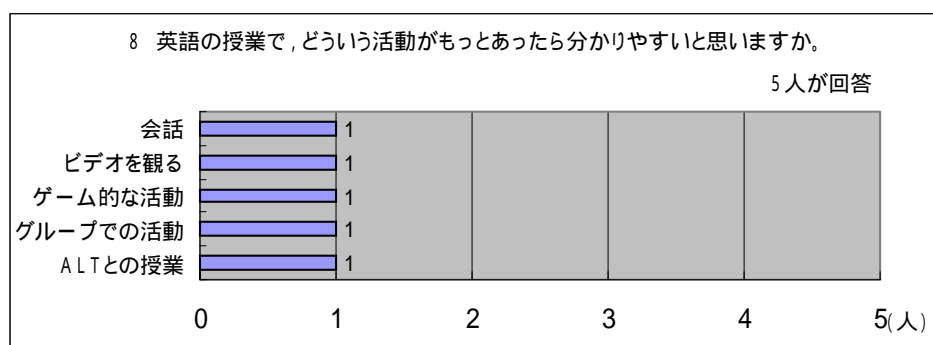
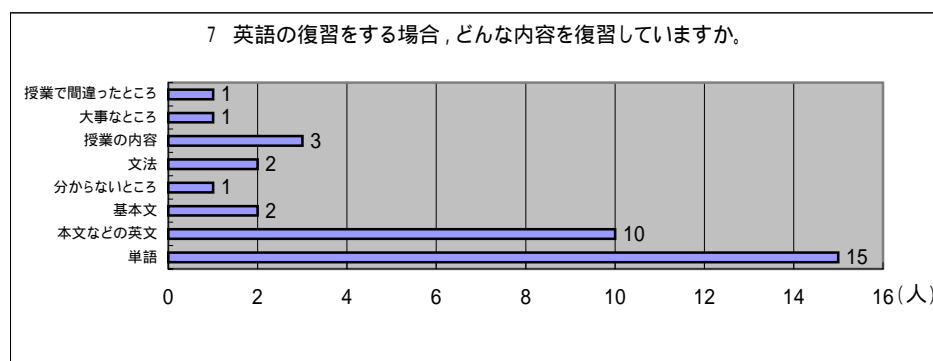
ウ 調査内容

- 1 英語の学習が好きですか。
ア とても好き イ 好き ウ あまり好きではない エ 好きではない
- 2 英語の授業ではどんな学習が好きですか。いくつ選んでも結構です。
ア 英語を聞くこと イ 英語を話すこと ウ 英語を読むこと
エ 英語を書くこと オ 特になし
- 3 英語の学習で苦手な学習は何ですか。いくつ選んでも結構です。
ア 英語を聞くこと イ 英語を話すこと ウ 英語を読むこと
エ 英語を書くこと オ 特になし
- 4 英語の授業があるとき、前もって家で予習をしていますか。
ア 必ずする イ たいいていする ウ あまりしない エ しない
- 5 英語の予習をする場合、どんな内容を予習していますか。あてはまることをすべて答えてください。(4で「エ しない」と答えた人は答える必要はありません。)
- 6 英語の授業があった日、家で復習をしていますか。
ア 必ずする イ たいいていする ウ あまりしない エ しない
- 7 英語の復習をする場合、どんな内容を復習していますか。あてはまることをすべて答えてください。(6で「エ しない」と答えた人は答える必要はありません。)
- 8 英語の授業で、どういう活動がもっとあったら分かりやすいと思いますか。希望することを自由に答えて結構です。特にない場合は、答える必要はありません。

エ 調査結果







オ 調査結果の考察

「1 英語の学習が好きですか。」の項目では、19名の生徒が「とても好き」または「好き」と回答しているものの、10名の生徒が「あまり好きではない」または「好きではない」と回答している。これからの指導を通して、生徒の学習意欲を喚起し、学習内容を確実に理解させていくことで、英語の学習が好きな生徒を育てていくことが大切である。

「2 英語の授業ではどんな学習が好きですか。」の項目では、「話すこと」と回答した生徒が14名と多い。また、「読むこと」と回答した生徒も、11名と多かった。一方、「書くこと」と回答したのは1名のみであり、意欲的に書くことの言語活動を行わせる必要がある。

「3 英語の学習で苦手な学習は何ですか。」の項目では、「書くこと」と回答した生徒が、20名と多い。このことは、「2 英語の授業ではどんな学習が好きですか。」の項目で、「書くこと」の回答が極端に少なかったことと関連が深いと受けとめられる。今後、「書くこと」に関する指導の充実を図ることにより、書く力を身に付けさせ、苦手意識の克服や書くことの学習に対する学習意欲を高めていくことが求められる。

「4 英語の授業があるとき、前もって家で予習をしていますか。」の項目では、「あまりしない」または「しない」と回答した生徒が、17名と多く、調査学級生徒数の半分以上を超えている。授業の学習内容を理解し活発な学習活動を行っていくために、新出の語のみでも事前に予習する習慣を付けさせていくことが必要である。

「5 英語の予習をする場合、どんな内容を予習していますか。」の項目では、「予習をしない」と回答した生徒を除き、「単語」や「本文などの英文」と回答した生徒が、それぞれ22名、11名であった。予習の学習内容とし

て取り組みやすい学習活動であるからと思われる。

「6 英語の授業があった日、家で復習をしていますか。」の項目では、「あまりしない」または「しない」と回答した生徒が、16名と多い。これは予習の状況と似たような傾向にあり、学習内容を確実に身に付けさせていくために、予習や復習が習慣化するように指導していく必要がある。

「7 英語の復習をする場合、どんな内容を復習していますか。」の項目では、予習の内容と同じように、「単語」や「本文などの英文」と回答した生徒が、それぞれ15名、10名であった。予習のときと同様、学習内容として取り組みやすい学習活動であるからと言える。

「8 英語の授業で、どのような活動がもっとあったら分かりやすいと思いますか。」の項目では、回答した生徒は少なかったものの、「会話」、「ゲーム的な活動」、「グループでの活動」など、相手を伴った学習活動という点で共通していることが分かる。

(2) 語の定着を図る指導の工夫

指導する語については、学習指導要領に示される語、連語及び慣用表現のうち、使用教科書(「Sunshine English Course」)で用いられているものとする。指導上の配慮事項として、学習指導要領には次のように示されている。

語、連語及び慣用表現の指導に当たっては、運用度の高いものを厳選し、習熟を図るようにすること。

(学習指導要領 3 指導計画の作成と内容の取扱い (1)指導計画の作成上の配慮事項 カ)

ここでは、語などの選択についての考え方が示されているが、「運用度の高いもの」とは、言語の使用場面や言語の働きとしてよく使われる身近な語や連語及び慣用表現とされている。これらの習熟を図っていくことが、実践的コミュニケーション能力の基礎を養うという観点から重要なものであるので、本研究でもこのことに留意して語の指導を進めていく。

ア 語の指導における工夫

フラッシュ・カードの作成と活用法

新出語のフラッシュ・カードを作成するに当たっては、とりわけ、動詞の作成について、コミュニケーション活動に深く関連のある言語の働きに気付かせるために、視覚的に効果のある赤などの色を使う。

フラッシュ・カードの活用にあたっては、特に次の点について留意して行う。

提示する語を生徒全員が正確に発音できるようにするために、教師やCD等の後に続けて明瞭な声で繰り返し練習させる。この指導がおろそかになると、今後正しい語の発音ができないまま、学習を続けていくことになるおそれがある。

発音させるパターンを一斉だけに固定せず、縦横の列を使うなど多様なパターンを工夫することで指導がマンネリ化しないようにする。さらに、緊張感と集中力を保つために、徐々にスピーディーな練習に取り組みせる。

句や文を用いての提示

フラッシュ・カードによる新出語の提示及び練習の終了後、実際の語の

用い方について、語から句、句から文の提示へと進行する。その際、運用度の高い既習の基本的な語を用いることを原則とする。

提示する際には、フラッシュ・カードのようなカード等を作成して確認させることとし、指導に当たっては、生徒全員が実際に声を出して練習したり、まとまった意味を考えたりするように工夫する。

運用度の高い語の活用

運用度の高い語(学習指導要領に示されている語及び教科書で重要な取扱いが示されている語)については、授業や課題で繰り返し提示することで、その使い方に慣れさせていく。とりわけ、授業中の言語活動では、機会をとらえて何度も使用させながら、単純な練習だけに終わらず、実際の使用場面を意識した学習活動を通して、定着を図る。

イ 語の定着を図る家庭学習の工夫

学習した語を確実に書くことができるようにするためには、日々の家庭学習を工夫することが大切である。新出の語や運用度の高い既習の語を中心に、継続的に書いて身に付けていく学び方を体得させることが必要である。

そこで、定期的にノート等を点検したり、事前に家庭学習で学習させた語について確認のテストを実施したりするなど、計画的に評価を行い、個に応じた家庭学習の方法を指導することで家庭学習の取組を改善させていくことが大切であると考えられる。

(3) 場面に応じた適切な英文を書く指導の工夫

コミュニケーションを図る活動と言語材料の指導のとりえ方については、学習指導要領に次のように示されている。

実際に言語を使用して互いの気持ちや考えを伝え合うなどのコミュニケーションを図る活動を行うとともに、(3)に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。

(学習指導要領 2 内容 (2)言語活動の取扱い ア 3 学年を通した全体的な配慮事項 (ア))

ここでは、3 学年間を通した言語活動の取扱いについての全体的な配慮事項のうち、実際に言語を使用してコミュニケーションを図る活動と言語材料についての理解や練習を行う活動とのバランスに配慮しつつ指導することの必要性が述べられている。

実際にコミュニケーションを図る活動を行うに当たっては、語や文法事項など基本的な言語材料についての理解や練習が不可欠である。コミュニケーションを図る活動のみが重視され、語や文法事項など言語材料についての指導がおろそかになっては、実践的なコミュニケーション能力の基礎を養うことが困難である。また、逆に、言語材料についての指導のみが重視され、コミュニケーションを図る活動がおろそかになっても同じことが言える。

このことから、場面に応じた適切な英文を書くためには、実際にコミュニケーションを図る活動と言語材料についての理解や練習のバランスに配慮することに加え、文法事項など基本的な言語材料についての指導の工夫が求められる。さらに、場面に応じた英文となるように、言語の使用場面を設定してコミュニケーションを図る活動を行うことが大切である。

ア 文法事項など基本的な言語材料についての指導の工夫

(1)の「語の定着を図る指導の工夫」で示した語に関する言語材料とともに、文法事項など基本的な言語材料についての理解や練習が、実際に英文を書く力につながる。

指導においては、導入の段階でいかに分かりやすく指導するかが重要なことになるので、特に次の点に留意することが大切である。

使用する言語材料は努めて既習であり基本的なものとする。また、理解を助け、学習内容への興味をもたせるために、用いる教具・教材を工夫する。さらに、生徒にとって身近な話題や場面と関連付けて指導を行う。

イ 言語の使用場面の設定

場面に応じた適切な英文を書くためには、語や文法事項など基本的な言語材料の理解や練習に加え、言語の使用場面を設定してコミュニケーションを図る活動を行うことが大切である。

そこで、あいさつなど特有の表現が使われる場所や、学校での学習や活動など生徒の身近な暮らしにかかわる場面を設定し、その中で大切な表現を用いながら自然な対話に取り組ませる。

2 研究協力学校での検証授業

研究協力学校に依頼し、2回の検証授業を行った。

(1) 検証授業1(平成16年7月)

ア 対象学年

第2学年(30名)

イ 単元

PROGRAM 4 With Love and with Joy

ウ 本時の目標

- ・ 助動詞 **must** を用いた言語活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ 助動詞 **must** の使い方について理解することができる。
- ・ 助動詞 **must** を用いて対話を行うことができる。
- ・ 助動詞 **must** を用いて初歩的な英文を書くことができる。

エ 指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備
1 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械的なあいさつに終わらず、コミュニケーションが行えるように個別のあいさつを大切にする。 ・ 既習の語を用いた学校生活等に関わる質問を取り入れる。 	フラッシュ・カード
2 語の復習テストを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ PROGRAM 4 - Before Reading の単語テストを行う。 ・ 家庭学習として課した内容から出題する。(基本的な語5題) ・ 解答後、発音練習を行い、語から句へ、句から文へと語の使い方に慣れさせる。 	

<p>3 新しい言語材料 (must) を用いた教師の英語を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の語を用いる。 既習の文法事項と関連付ける。 生徒にとって身近な言語の使用場面 (朝の支度の場面・道路標識を意識する場面) を設定する。 場面を演出する教具を用いる。 途中, 英問英答を取り入れ, 生徒が参加できる内容とする。 	<p>教具 (時計) 教具 (道路標識)</p>
<p>4 3の活動から本時の目標を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文法上の用語そのものよりも, どんな場合にどんな表現を用いるのかに着目させる。 本時の目標をワークシートに記入させ, 意識付けを図る。 	<p>ワークシート</p>
<p>5 新しい言語材料 (must) を理解し, その練習を行う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「～しなければならない」と必要・義務についていうときの表現を学習しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 3の活動で用いたキー・センテンス (You must stop.) をもとに練習を始める。 キー・センテンスをもとに, パターン・プラクティスを取り入れる。 使用する語は既習で基本的なものをを用いる。 比較的平易な文から徐々に句や連語を伴う文にしていく。 練習で用いる語の確認を行い, スムーズな活動へとつなげていく。 	<p>ワークシート ヒントカード</p>
<p>6 新しい言語材料 (must) を用いた対話を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然な対話が行われる言語の使用場面を設定する。 既習の語や既習の文法事項を用いた対話の内容とする。 適切な表現で答えることに留意した対話の内容とする。 相手を替えて, 複数の級友と対話を行わせる。 	<p>ワークシート</p>
<p>7 新しい言語材料 (must) を用いた文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6の対話で用いた新しい言語材料 (must) が含まれる英文をワークシートに書かせる。 文全体が適切であることよりも, 新しい言語材料 (must) の使い方ができているかに注意して机間指導を行う。 	<p>ワークシート</p>

8 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時で学習した新しい言語材料 (must) を整理し , ノートにまとめさせ , 本時で扱った英文を音読させる。 ・ 次時の語の復習テストについて予告し , 家庭学習で取り組ませる。 ・ 次時に扱う新出語について , 予習の指示をする。 	
-------	--	--

エ 研究の内容の考察

語の定着を図る指導の工夫

a 語の指導の実際

語の定着を図るために行った基本的な語 5 題の復習テストでは , テスト終了後 , 教師が作成したフラッシュ・カードを用いて口頭での練習を行った。フラッシュ・カードを用いることで生徒が集中して取り組むことができ , 練習のスピードを徐々に速めたことから生徒は意欲的に声を出して学習活動に取り組んだ。

フラッシュ・カードで語のみの練習が終了したあと , 練習した語を既習の語と関連付けて短い句や文とともに表現する練習に取り組んだ。始めは活動に慣れていなかったため , 反応の早さに生徒間で差が見られたが , 回数を重ねるたびに教師のモデルを真似てスムーズに練習できるようになった。生徒は句や文として練習する中で , 提示されたカードの裏に書かれた意味が確認できるようになり , しばらくすると , ほとんどの生徒たちが意味だけを見て句や文の形で言えるようになってきた。

語の練習に限らず , 授業では既習の語を中心に比較的運用度の高い語を学習活動に取り入れた。そうすることで , 生徒たちは , 新しい言語材料を理解し , 練習を行う活動や対話をする活動に取り組みやすくなり , 声が出るようになった。

【復習テストの語と練習で用いた句や文】

woman	<p>a pretty woman.</p> <p>I'm a pretty woman.</p>
work	<p>People work.</p> <p>People work for their family.</p> <p>I'll work for the family, too.</p>

poor	<p>poor people, the poor</p> <p>Many people worked for the poor.</p>
still	<p>I remember Malcom.</p> <p>I still remember his smile.</p>
must	<p>You must study.</p> <p>You must study English.</p> <p>You must study math.</p> <p>You must study for your life.</p>

b 語の定着を図る家庭学習

語の復習テストを行うに当たっては、あらかじめ前時の終わりに出題する語を生徒に伝え、家庭学習で書いて練習することを課した。確実に
出題されることが事前に分かっていることで、意欲的に事前の学習に臨
み、多くの生徒が出題された5題すべてを正確に解答することができた。
場面に応じた適切な英文を書く指導の工夫

a 文法事項など基本的な言語材料についての指導の工夫

本時の文法事項の新しい言語材料は「must」の用い方である。導入
に当たっては、語を含め提示する英文等は既習で基本的なものを用いた。
さらに、理解を助け、学習内容への興味をもたせるために、場面を演出
する教具の工夫に努めた。本時では時計の模型と「止まれ」を表す画用
紙の道路標識を作成し、「must」の用い方について教師の提示する英文
や対話の例文を理解しやすくなるようにした。教具を用いたために、聞
いた内容や「must」の表す意味を想像しやすくなり、教師の質問に進
んで答える生徒が多かった。また、導入の間、教師の話や説明を一方的
に聞くのではなく、途中、英問英答を取り入れ、参加しやすい場面の設
定に心がけたために、生徒たちは集中して学習に取り組んでいた。

【導入で聞き取らせた英文】

**Oh, what day is it today? Monday. I must work
again.**

What time is it? I must get up! I must change

clothes.

I must wash my face, brush my teeth, and comb my hair.

I must cook breakfast. I must eat breakfast. We must eat fish, *natto*, *tofu*, and *miso soup*. Because they are good for us.

What do you have for breakfast?

I must drink some milk.

Why?

Because milk is good for us, too.

It's too late! I must go now.

Oh, it's raining. I must take my umbrella.

Oh, the signal turned to red. I must stop.

Oh, here's a "STOP" sign. I must stop here.

In the morning, I'm very busy!

b 言語の使用場面の設定

場面に応じた適切な英文を書かせるために、言語の使用場面を設定してコミュニケーションを図る活動を行った。導入では、生徒に身近な場面である登校前の朝の支度の場面や、登下校の際によく見かける道路標識に注意する場面を取り入れた。また、「must」を用いた対話の練習では、家庭生活や学校生活で馴染みのある表現を多く取り入れた。この対話の練習で用いた「must」の英文を最終的に書かせる活動を取り入れたが、対話の練習で使い慣れてきたこともあり、細かいスペルの間違いはあったものの、身近な内容を新出の「must」を用いて書いて表現できる生徒が目立った。

【対話の活動で用いた主な対話文】

A: You must go to bed.
B: Pardon?
A: You must go to bed.
B: Why?
A: Because it is too late.

A: You must read this book.
B: Pardon?
A: You must read this book.
B: Why?
A: Because it is very interesting.

A: You must speak English.
B: Pardon?
A: You must speak English.
B: Why?
A: Because this is English class.

A: You must drink some milk.
B: Pardon?
A: You must drink some milk.
B: Why?
A: Because it is good for you.

A: You must be quiet.
B: Pardon?
A: You must be quiet.
B: Why?
A: Because the baby is sleeping.

(3) 検証授業 2 (平成 1 6 年 1 1 月)

ア 対象学年

第 2 学年 (3 1 名)

イ 単元

PROGRAM 6 I'm Looking Forward to the Trip!

ウ 本時の目標

- ・ 不定詞の形容詞的用法を用いた言語活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ 不定詞の形容詞的用法について理解することができる。
- ・ 不定詞の形容詞的用法を用いて対話を行うことができる。
- ・ 不定詞の形容詞的用法を用いて初歩的な英文を書くことができる。

エ 指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備
<p>1 前時の復習をする。 あいさつをする。 小テストに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつと簡単な会話を行う。 ・ 基本的な語句をテストし，定着を図る。 ・ 解答時に関連表現を練習する。 	<p>小テスト フラッシュ・カード</p>
<p>2 学習のめあてをつかむ。 教師の英語を聞く。 「～する(もの,こと)」 という言い方を学習しよう。 不定詞(形容詞的用法) の用法について説明を聞く。 パターンプラクティス を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピクチャーカードを示しながら英文を聞かせ，不定詞(形容詞的用法)の表現を理解しやすくさせる。 ・ 不定詞のこの用法は，使用語句がかなり限られるので，決まり文句を提示し，用法に慣れさせる。 ・ 基本文や導入段階で用いた英文をもとにパターンプラクティスを行い，不定詞の用法に慣れさせたあと，ワークシートに記入させる。 	<p>ピクチャーカード ワークシート</p>
<p>3 不定詞(形容詞的用法)の 練習をする。 3種類のカードを集め よう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カードを用いて活動させることにより，生徒の活動意欲を高めながら，いろいろな語句を使って不定詞(形容詞的用法)に触れさせることで，感覚的に理解させる。 	<p>カード</p>
<p>4 不定詞(形容詞的用法)を 使って，身近なことを表現 する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動で使った表現の中から好きなものを選んで，ワークシートに書かせる。 	
<p>5 次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は，教科書の本文の内容を学習することを伝え，予習を課す。 	

エ 研究の内容の考察

語の定着を図る指導の工夫

a 語の指導の実際

今回の授業でも継続して取り組んでいる，基本的な語句の小テストを行った。前時に学習した内容の中から，新出の基本的で重要な語句を中心に行ったが，事前に家庭で学習してくる指示がされていたこともあって，ほとんどの生徒が正確に解答することができた。

テスト終了後のフラッシュ・カードを用いた練習にも生徒たちはかなり慣れてきており，7月の検証授業の時よりもスピーディーに活動することができ，明瞭で元気の良い声が出せるようになってきた。単語テストと，実施後のフラッシュ・カードを用いた口頭練習の継続の成果が表

れていると感じた。

関連表現の練習に際しては、フラッシュ・カードの語句を既習の語と関連付けて短い句や文の形で練習した。この活動にも生徒たちはかなり慣れてきており、語句が実際にどのような表現をするときに用いられるのか理解できたようである。

また、今回の授業で用いる語も活動全般を通じて、既習の語の中で運用度の高い語を中心に用い、生徒の学習活動がスムーズに行えるように配慮した。特に、他の生徒たちと対話する場面では、生徒が話しやすい言語材料が使われる場面としたことが活発な活動へとつながった。

b 語の定着を図る家庭学習

前回の検証授業以降、語の小テストに関連させて、家庭学習で語を中心とした練習に取り組ませており、学級全体を通して、その成果が小テストの結果に表れてきている。英語の学習を比較的苦手とする生徒も、あらかじめ出題の指示がされた語の学習に意欲をもって取り組み、その結果に自信をもちながら学習活動に取り組むことができた。

場面に応じた適切な英文を書く指導の工夫

a 文法事項など基本的な言語材料についての指導の工夫

本時の文法事項の新しい言語材料は、「不定詞(形容詞的用法)」の用い方である。導入に当たっては、本時の授業でも、語を含め提示する英文等は、既習事項で基本的なものを中心に用いた。不定詞を用いた英文を初めて聞かせる際には、生徒の興味を喚起し、英文の内容を理解しやすくするために、英文の内容を表すピクチャーカードを使った。このことが、生徒が to 不定詞の新しい使い方を確認するワークシートへの記入に役立った。また、不定詞の形容詞的用法が使われる主な名詞句を既習事項に配慮しながら精選し、教師が提示したあとで、パターンプラクティスを通してまとまりのある意味として理解できるよう指導した。パターンプラクティスを通して繰り返し口頭練習を行ったために、生徒たちは不定詞の形容詞的用法の用い方に徐々に慣れ、多くの生徒が瞬時に示された日本語を英語で言えるようになった。その結果、ワークシートで設定した用法を確認する問題に、ほとんどの生徒が正確に解答することができた。なお、今回の授業でも、導入の部分では、教師の一方的な説明にならないよう、途中、生徒が既習事項を生かしながら英語で答える場面を取り入れた。そうすることで、生徒はより集中して学習活動に参加できたと思われる。

【パターンプラクティスで用いた、主な不定詞の形容詞的用法】

something to eat (何か食べるもの)

something to drink (何か飲むもの)

something to do (何かすること)

a book to read (読む本)

a place to visit (訪れる場所)

b 言語の使用場面の設定

場面に応じた適切な英文を書くことにつながるように、他の生徒に食べたいものなどを依頼する対話の場面を設定した。この場面設定では、単に提示された対話文を練習するのではなく、依頼する内容を自由に考えて話すことができるようにした。実際には、対話を通して、食べ物、飲み物及び読み物の3種類のカードを集めていく、ゲーム的な要素を用いた活動を行った。導入で不定詞をともなった句や文の基本的な練習を豊富に行ったことに加え、対話の活動がゲーム的な要素を含んでいたために、互いに不定詞を用いた表現を使って意欲的に話そうとしていた。この対話の活動が、次に行った不定詞を使って英語を書くことに効果的につながった。ワークシートに設定された、不定詞を用いた英文を書く問題では、多少、語のスペルミスはあったものの、ほとんどの生徒たちが、正確な語順で内容が伝わる英文を書くことができた。

【対話の活動で用いた対話文】

A:	I'm hungry. Do you have anything to eat?
	I'm thirsty. Do you have anything to drink?
	I'm free. Do you have anything to read?
B:	Yes. Oh, I have (). Here you are.
	No. I'm sorry. I have nothing to eat.
	No. I'm sorry. I have nothing to drink.
	No. I'm sorry. I have nothing to read.

【対話の活動で用いたカードの一部】



【不定詞を用いて書いた英文例】



オ 自己評価

第2回の検証授業を終えて、自己評価を行ったが、その評価項目等と評価の結果は次の通りである。

自己評価表の内容

2年()組()番 氏名_____

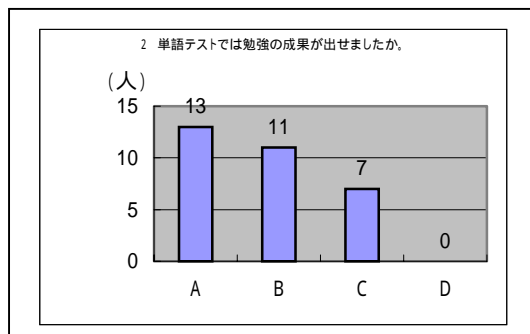
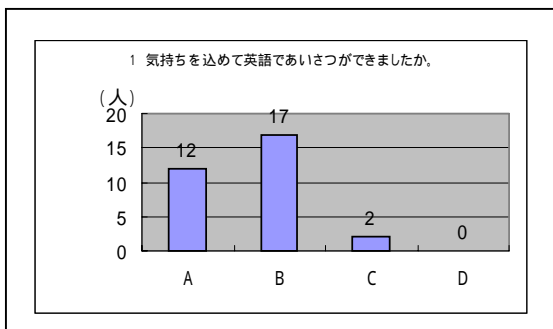
今日の授業について、自分の学習活動を振り返りましょう

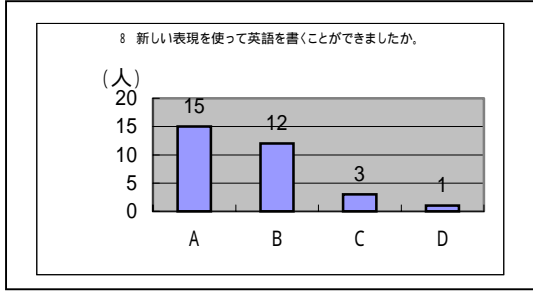
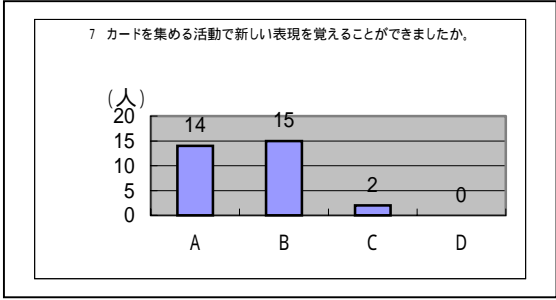
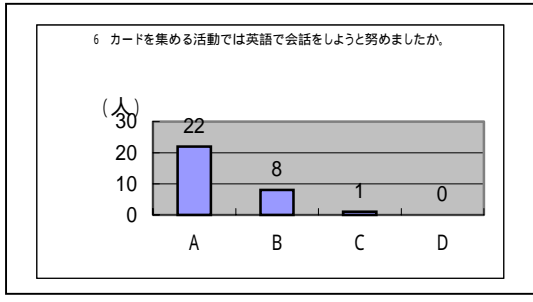
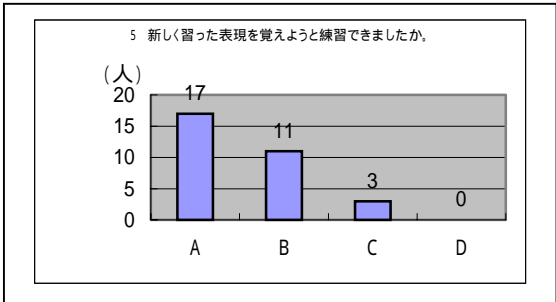
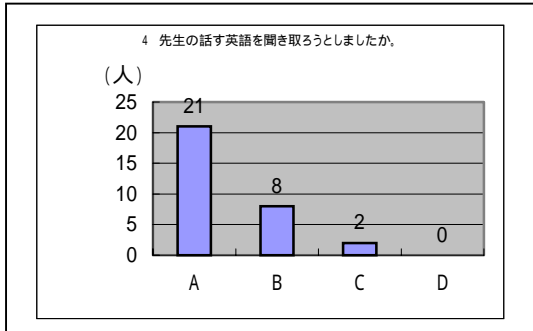
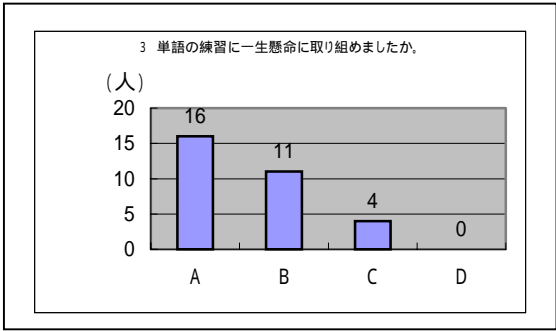
それぞれの活動について、自分が当てはまると思う状況に をつけましょう。

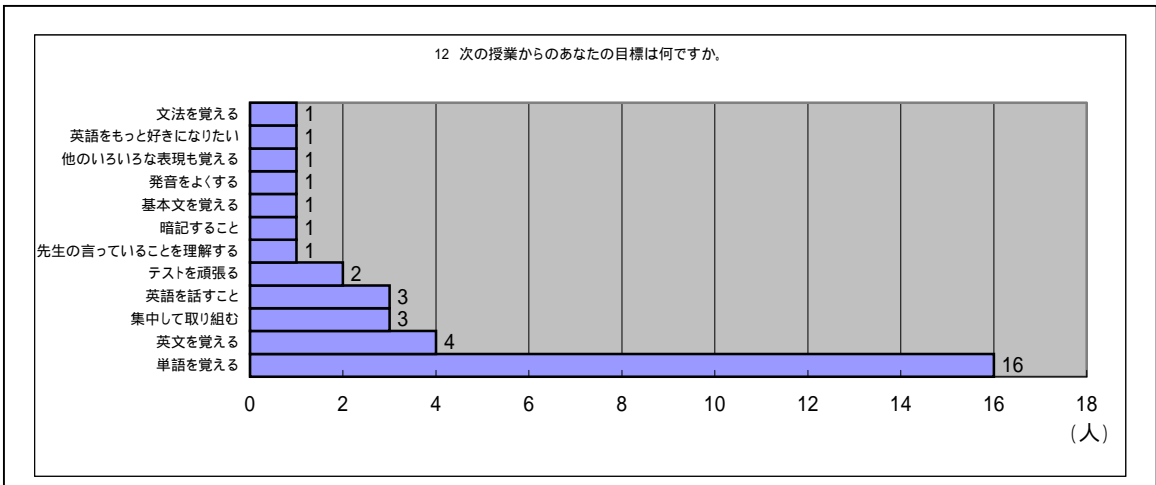
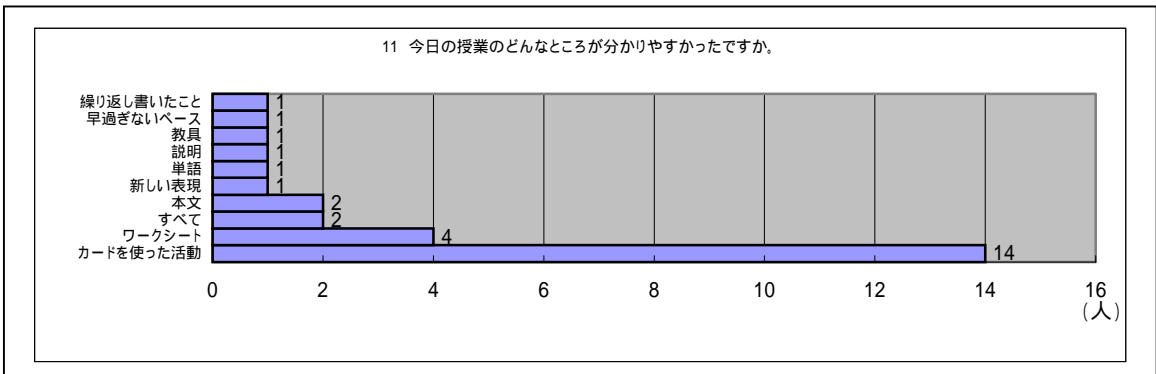
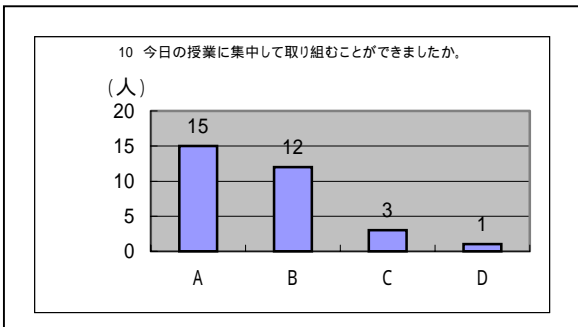
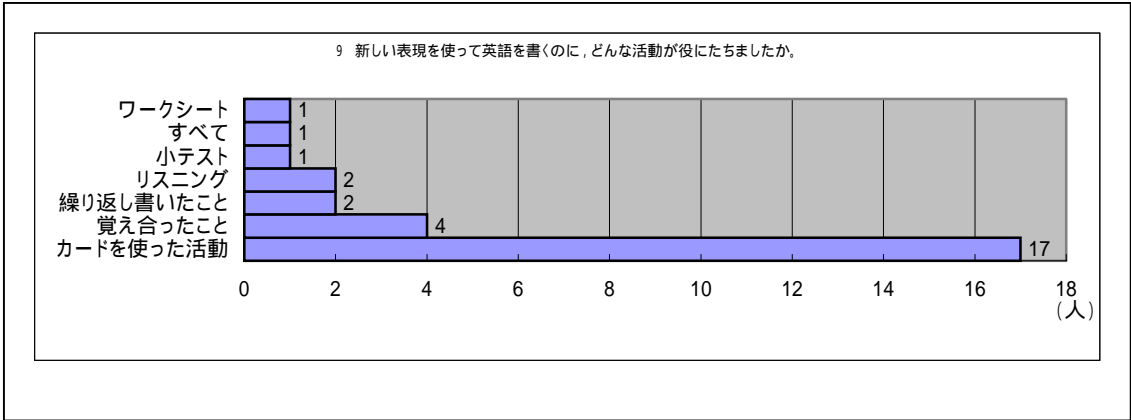
	学 習 活 動	A	B	C	D
		よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
1	気持ちを込めて英語であいさつができましたか。	A	B	C	D
2	単語テストでは勉強の成果が出せましたか。	A	B	C	D
3	単語の練習に一生懸命に取り組めましたか。	A	B	C	D
4	先生の話す英語を聞き取ろうとしましたか。	A	B	C	D
5	新しく習った表現を覚えようと練習できましたか。	A	B	C	D
6	カードを集める活動では英語で会話をしようと努めましたか。	A	B	C	D
7	カードを集める活動で新しい表現を覚えることができましたか。	A	B	C	D
8	新しい表現を使って英語を書くことができましたか。	A	B	C	D
9	新しい表現を使って英語を書くのに、どんな活動が役に立ちましたか。	自由に書いてください。			
10	今日の授業に集中して取り組むことができましたか。	A	B	C	D
11	今日の授業のどんなところが分かりやすかったですか。	自由に書いてください。			
12	次の授業からのあなたの目標は何ですか。	自由に書いてください。			

評価結果

A (よくできた) B (だいたいできた) C (あまりできなかった) D (できなかった)







評価結果の考察

「1 気持ちを込めて英語であいさつができましたか。」の項目では、ほとんどの生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。授業の冒頭から、生徒たちが集中して取り組もうとしている姿勢がうかがえたが、授業のウォーミング・アップを兼ねながら、一斉に元気よく答えさせたり、既習の表現を用いた問いかけを個に応じて個別に与えたりしたことが、集中力を高めることや学習しやすい雰囲気を整えることにつながったと考える。

「2 単語テストでは勉強の成果が出せましたか。」の項目では、24名の生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。これは、語の定着を図るために家庭学習で語の練習を継続的に取り組ませてきたことによるものであると考える。しかし、7名の生徒が「あまりできなかった」と回答していることから、これらの生徒に対して、今後も家庭学習の方法やその内容について個に応じた指導を継続していく必要がある。

「3 単語の練習に一生懸命に取り組みましたか。」の項目では、27名の生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。小テストの終了後に行った語の練習において、フラッシュ・カードを用いて口頭で練習させたり、指定された時間内で覚えるまで徹底して書く練習をさせたりする活動が、生徒の集中力と学習意欲を高めたものと思われる。

「4 先生の話す英語を聞き取ろうとしましたか。」の項目では、29名の生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。特に、新しい言語材料を導入する場面において、ピクチャーカードを用いながら英文を聞かせたことや、教師の一方的な説明に終始しないように、英文を聞かせる活動の途中で既習事項を生かした英問英答を行ったことによって、生徒の集中力が持続したものと思われる。

「5 新しく習った表現を覚えようと練習できましたか。」の項目では、28名の生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。教師があらかじめ不定詞の形容詞的用法が使われる主な名詞句を精選し、それらを提示したあとで、パターンプラクティスを通して繰り返し口頭練習を行わせるなど、明確な指示によって、生徒たちは新しい表現を覚える練習に取り組みやすかったものと思われる。

「6 カードを集める活動では英語で会話をしようとする活動が、積極的に英語を使って会話をしようとする活動につながったものと思われる。この活動に入る前に不定詞に関する基本的な練習を多く行い、生徒が不定詞の表現に慣れてきていたことも、英語で会話をしようという意欲につながったのではないかと考える。

「7 カードを集める活動で新しい表現を覚えることができましたか。」の項目では、29名の生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。英語で会話をしようとする活動の生徒のほとんどが、新しい表現を覚えることができたと考えられる。生徒をいかに意欲的に活動させ

るかが、指導内容を確実に理解させる上で、大切なことであると再確認できた。

「8 新しい表現を使って英語を書くことができましたか。」の項目では、27名の生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。そのうち、「よくできた」と回答したのは、15名と学級の約半数である。英語を書くことに対して苦手意識の強かった生徒たちが多かったことを考えると、望ましい成果が得られつつあると考えられる。このことは、授業の中で既習の運用度の高い語を中心に用い、生徒の学習活動がスムーズに行えるように配慮したことに加え、カードを使った対話文の練習に意欲的に取り組ませることができたことによるものと考えられる。また、実際に書かせる英文を対話の活動で用いた新しい表現にしぼったことも有効であったと考えられる。

「9 新しい表現を使って英語を書くのに、どんな活動が役に立ちましたか。」の項目では、「カードを使った活動」と回答した生徒が17名と多い。このことは、ゲーム的要素を取り入れた学習活動について問うた「6」及び「7」の各回答結果と関係が深いと考えることができる。実際に新しい表現を用いて英語を書かせる指導においては、ゲーム的要素を取り入れて対話の活動を意欲的に行わせたり、新しい表現を覚えさせたりしたことが、効果的であったととらえることができる。

「10 今日の授業に集中して取り組むことができました。」の項目では、27名の生徒が、「よくできた」または「だいたいできた」と回答している。これは、授業の全体を通して、教師の指示が的確に出されたことによるところが大きいと考える。また、用いる語や文を既習の運用度の高いものに精選したことや、ゲーム的な要素を取り入れた活動に取り組ませたことも効果的であったと考える。さらに、導入の部分において、教師の説明を聞くだけで終わらないよう、途中、教師の質問に英語で答えさせる場面を取り入れたことも、生徒の集中力を高めることに効果的であったと考えられる。

「11 今日の授業のどんなところが分かりやすかったですか。」の項目においても、「カードを使った活動」が14名と多い。不定詞の形容詞的用法に慣れ親しませたあと、実際にその用法を使いながらゲーム的要素を取り入れた活動を行ったことが、生徒にとって理解しやすかったと考えられる。

「12 次の授業からのあなたの目標は何ですか。」の項目では、「単語を覚える」と回答した生徒が16名と多い。「2」及び「3」の各質問項目において、「あまりできなかった」と回答した生徒は、それぞれ7名と4名であった。「単語を覚える」と回答した生徒が多かったのは、授業の全体を通して運用度の高い既習の語を多用したり、本時に練習して使い慣れた語を用いて対話の活動を行ったりしたことが、対話や英語を書く活動をスムーズに行うことにつながった。このことにより、語を確実に覚えることの大切さに生徒の多くが改めて気付いたことによるものと考えられる。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

語の指導に際し、運用度の高い語を中心にフラッシュ・カードを作成し、緊張感と集中力を保たせながら、発音の練習に取り組みさせたことにより、明瞭な声で語の発音ができるようになった。

語の指導に際し、語のみの指導とならないように、指導する語が用いられる句や文で練習させたり、既習の運用度の高い語を授業の中で多用したりしたことにより、言語活動において、語を適切に使うことができるようになった。

語の定着を図る家庭学習に取り組みせ、その内容について小テストを実施したことにより、指示された語が正確に書けるようになった。

文法事項など基本的な言語材料についての指導に際し、導入の段階において、既習の関連する表現を精選して提示したり、ピクチャーカードやワークシートなど教具・教材の工夫を行ったりしたことにより、新出の表現の理解を深めることができた。

場面に応じた適切な英文を書かせるために、言語を使用する場面を、生徒の身近な場面にしたり、ゲーム的な要素を取り入れて新出の表現を使用させたりしたことにより、新出の表現を用いた英文に慣れ、その結果定着し、最終的に書けるようになった。

2 今後の課題

語の定着を図る家庭学習の取り組みにおいて、小テストなど定着を確認する活動で十分に定着していない生徒への個に応じた適切な指導を充実すること。

文法事項など基本的な言語材料についての指導に際し、生徒の学習意欲を一層喚起していくために、聞いたり読んだりする英文などの内容が想像しやすい教材・教具を更に開発していくこと。

場面に応じた適切な英文を書く力を定着させるために、毎時間の指導において、英文を書く活動がおろそかにならないように配慮し、毎時間書く活動の場を設定していくこと。

参考文献

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| ・中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 - 外国語編 - | 文部省 |
| ・実践的コミュニケーションの指導 高橋正夫 著 | 大修館書店 |
| ・言語活動成功事例集 藤井昌子，イヴァン・バーケル 共著 | 開隆堂 |
| ・英語指導法ハンドブック指導技術編 青木昭六，池浦貞彦，金田正也 編集 | 大修館書店 |